



12月のえんだより

今年も残るところわずかとなりました。日に日に寒さが増し、園庭を吹き抜ける風も冷たく、木々の葉っぱも寒そうに揺れて舞っています。街のあちらこちらにクリスマスの飾りが見られるようになり、今年もあとひと月を残すのみとなりました。

寒いとつい部屋の中で過ごしたくなるのは大人の感覚で、子どもはとにかく戸外が大好きです。天気の良い日はできるだけ戸外でしっかりと体を動かし、運動機能を高めたり、風邪などひかない元気な体を作って行きたいと思えます。

12月といえば、クリスマス、おもちつき、大掃除、年末の買物等、子ども達にとっては楽しいことがいっぱいあります。子どもたちにできる簡単なことはお手伝いをさせてあげて下さい。そして「ありがとう、助かったよ」と声を掛けてあげて下さい。子ども達にとってお父さんやお母さんの役に立てたということはとても大きな喜びであり、自信につながります。

あわただしくなりがちなのこの時期、子ども達や保護者の方とのコミュニケーションをおろそかにしないよう、気をつけていきたいと思えます。

年末年始も規則正しい生活をしましょう

- 早寝早起き、朝昼晩の食事・おやつ・テレビを見る時間などは、きちんと決めておきましょう。
- 年末年始に限らず、ふだんから生活のリズムが大人中心になりがちです。子どもたちのリズムを大切にしましょう。
- 暖房のついている部屋に閉じこもらずに、戸外でも遊びましょう。



大掃除

12/11(土)は保育園内の大掃除を行います。当日は何かとご迷惑をおかけすると思いますが、ご理解・ご協力の程よろしくお祈りいたします。

朝の連絡はできる限り「メール」でお願いします。

朝に保育園へ連絡をいただく際、メールでの連絡でも特に問題がない場合は、お電話ではなくメールにてご連絡いただくと助かります。よろしくお祈りいたします。

taiyonoko-renraku@sunshine.ed.jp

12月の予定

- 3(金) もちつき
- 6~10 身体測定
- 7(火) 体育指導(幼児)
- 11(土) 大掃除
- 16(木) 音楽指導(幼児)
- 17(金) 避難訓練
- 22(水) 調理保育(らいおん)
- 23(木) 職員会議
- 24(金) お誕生日会



12/29~1/3は
年末年始休みです

1月の予定

- 6(木) 音楽指導(幼児)
- 11~14 身体測定
- 12(水) SUN太リハーサル(乳児)
- 14(金) SUN太リハーサル(幼児)
- 22(土) SUN太お楽しみ
- 25(火) 体育指導(幼児)
- 26(水) 調理保育(ぱんだ)
- 28(金) お誕生日会
- 28(金) 避難訓練

12月3日は「おもちつき」



「よいしょ、よいしょ!」と杵を手に、カいっぱいおもちをつく子どもたちの声が園内に響き渡り、ほのぼのとした雰囲気にもまれるおもちつき!! 今年も子どもたちのみでの実施となり少し寂しいですが、感染症対策に気を使いながら、楽しい思い出となるよう行います。



甘えは自立の第一歩。 大人の都合を伝えた上で 適切なときには甘えさせる

「困ったちゃん」の育て方
汐見稔幸監修(小学館)より抜粋

甘えなくとも親が見守っているとわからせて

ママの後追いをしてみたり、「抱っこ抱っこ」とせがんだり、ママにべったりの子どもは、情が細やかで厚い子だと言えます。性格的に、人間と人間の関係が好きなんです。

ひとり遊びが好きで、おもちゃなどの「もの」と丁寧な付き合いをするタイプの子もいければ、このようにいつも誰かとの関わりを「おねだり」して求めてくるタイプの子もいます。それぞれ何に充実を感じるかのタイプの違いなのです。

甘えん坊の素質をうまく伸ばしていくと、甘え上手で人懐っこく、ざっくばらんに相手に打ちとけられるような、誰からも愛される存在に育つ可能性があります。



でも、2歳ぐらいになったら、抱っこをせがまれてすぐに抱き上げるばかりではなく、「ちょっと今はだめ」と大人の都合を伝える必要があります。抱っこしなくても見守っていることをわからせ、「ひとりでも大丈夫なん

だ」ということを徐々に体験させていくんですね。そのためには、1歳代からいたずら活動を十分にさせておくことも大事です。そのとき「あっ、危ない!」と、すぐに抱っこしたり手を貸したりしないように努力することも必要。「ちょっとくらい失敗しても、大丈夫」というスタンスで見守ってあげると、「ひとりでもできるんだ!」「自分の力で達成できちゃうんだ!」と自信をつけていくチャンスになります。

「甘える」とは、人生のタクティクス(戦術)です。たとえば、きょうだいの下の子は、上の子を見て育っていますから、「こういうときは、ママやパパに飛び込んでいけばいいんだな!」ということの学習が早く、甘え上手。「こやって対人関係が上手に築けるタイプになっていくのね」というふうな、その子の得意分野として考えてみてください。でも、いつもいつも抱っこをせがまれる側のお母さんは大変でしょうから、すべてに付き合う必要はないんです。

周囲を見回してみると、歳をとっても甘え上手な人は甘え上手、甘え下手な人は甘え下手、個々のキャラクターを生きていますよね!(汐見)

子どもの甘え放題は2歳まで十分に

甘えは、自立の第一歩なんです。ママやパパが自分と違うとわかるから、距離感があるから、初めて甘えられるのです。日本語には「おことばに甘えて」という言い回しがありますが、それはわざわざ礼儀正しく「あなたとの距離を縮めさせていただきます」というお断りを言っているんですね。そんなことを言わずにすすすん入り込むのは無礼な人。無礼者から礼儀正しい人に移っていくのが発達なのです。甘えることは子どもが育ってきたひとつの証拠なのですから、それを認めることが必要でしょう。

今の時代は、子どもを早く自立させようとしすぎている気がします。早い自立をよしと考えるから、抱きぐせがついたらどうしよう、と抱っこが議論の対

象になる。それは頭で考えた子育てだと思えます。子どもとは、もっと情感豊かに関わっていきましょう。0、1、2歳の幼いときくらいは、抱きしめっぱなしでもいいくらいなんです。忙しいお母さん、お父さんには、子どもをかわいがりすぎてだめにするほどの余力など残ってないのでは? 忙しいときこそ、うんと抱っこしてかわいがるくらいがいいんです。(大日向)

